

(百年の礎を築く) - [戦略14] 熊本アカデミズム~「知」の集積を「地」の活力につなげます~

(1)現状と課題		(2)概要					(3)施策体系					(4)県民アンケート結果																				
<p>本県は、多くの大学が立地し、生命科学や半導体分野の企業や技術の集積もあります。このような特色を生かし、産学官連携により優秀な人材や技術を集積し、研究開発を活性化させる取組みが必要です。また、グローバル化が進展する中、将来の活力を生み出す若者が海外で学ぶチャレンジへの支援などが求められています。さらに、熊本が留学生から選ばれるようなまちづくりを積極的に進める必要があります。</p>		<p>熊本には多くの大学が立地し、生命科学や半導体などの分野での企業や技術の集積もあります。このような特色を生かし、大学や企業の研究開発を活発化させる取組みを進めます。</p> <p>また、県内の大学などに海外から多くの留学生が集まる、世界に開かれた活気あるまちづくりを進めます。</p> <p>さらに、夢を持ち海外へ挑戦する若者を支援し、グローバルな人材を育成するなど、「知」の集積を図り、それが「地」の活力となって世界とつながり発展する熊本づくりを進めます。</p>					<p>◆「知」を集める ~世界的な知の集積~ 【担当部局：企画振興部・商工観光労働部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>2</td> <td>22,219千円</td> <td>H27</td> <td>2</td> <td>26,793千円</td> </tr> </table>					H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H26	2	22,219千円	H27	2	26,793千円	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>								
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																											
H26	2	22,219千円	H27	2	26,793千円																											
<p>★戦略指標〔単位〕</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>i</td> <td>9 (H20~H23)</td> <td>6 <60.0%></td> <td>12 <120.0%></td> <td>18 <180.0%></td> <td>10 [件/4年(累計)]</td> </tr> </table>			策定時	H24	H25	H26	目標値	i	9 (H20~H23)	6 <60.0%>	12 <120.0%>	18 <180.0%>	10 [件/4年(累計)]	<p>◆研究開発部門と大学院を誘致する ~産学官連携による最先端技術の集積~ 【担当部局：総務部・企画振興部・環境生活部・商工観光労働部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>5</td> <td>44,680千円</td> <td>H27</td> <td>5</td> <td>223,485千円</td> </tr> </table>					H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H26	5	44,680千円	H27	5	223,485千円	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>	
	策定時	H24	H25	H26	目標値																											
i	9 (H20~H23)	6 <60.0%>	12 <120.0%>	18 <180.0%>	10 [件/4年(累計)]																											
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																											
H26	5	44,680千円	H27	5	223,485千円																											
<p>ii</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>ii</td> <td>10 (H23)</td> <td>19 <19.0%></td> <td>34 <34.0%></td> <td>44 <44.0%></td> <td>100 [人/4年(累計)]</td> </tr> </table>			策定時	H24	H25	H26	目標値	ii	10 (H23)	19 <19.0%>	34 <34.0%>	44 <44.0%>	100 [人/4年(累計)]	<p>◆留学生から「選ばれる」まちを創る ~留学生とつながる仕組みづくり~ 【担当部局：企画振興部・商工観光労働部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>2</td> <td>3,887千円</td> <td>H27</td> <td>2</td> <td>4,620千円</td> </tr> </table>					H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H26	2	3,887千円	H27	2	4,620千円	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>	
	策定時	H24	H25	H26	目標値																											
ii	10 (H23)	19 <19.0%>	34 <34.0%>	44 <44.0%>	100 [人/4年(累計)]																											
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																											
H26	2	3,887千円	H27	2	4,620千円																											
<p>iii</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>毎年度、前年度の割合を上回る [% (単年)]</th> </tr> <tr> <td>iii</td> <td>46.9 (H23)</td> <td>48.4 <+1.5></td> <td>50.1 <+3.2></td> <td>52.3 <+5.4></td> <td></td> </tr> </table>			策定時	H24	H25	H26	毎年度、前年度の割合を上回る [% (単年)]	iii	46.9 (H23)	48.4 <+1.5>	50.1 <+3.2>	52.3 <+5.4>		<p>◆国際人を育てる ~夢を持ち海外へ挑戦する若者への支援~ 【担当部局：総務部・企画振興部・教育庁】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>9</td> <td>56,958千円</td> <td>H27</td> <td>13</td> <td>133,040千円</td> </tr> </table>					H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H26	9	56,958千円	H27	13	133,040千円	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>	
	策定時	H24	H25	H26	毎年度、前年度の割合を上回る [% (単年)]																											
iii	46.9 (H23)	48.4 <+1.5>	50.1 <+3.2>	52.3 <+5.4>																												
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																											
H26	9	56,958千円	H27	13	133,040千円																											
<p>iv</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>iv</td> <td>575 (H23)</td> <td>655 <65.5%></td> <td>684 <68.4%></td> <td>735 <73.5%></td> <td>1,000人以上 [人/年(単年)]</td> </tr> </table>			策定時	H24	H25	H26	目標値	iv	575 (H23)	655 <65.5%>	684 <68.4%>	735 <73.5%>	1,000人以上 [人/年(単年)]	<p>分析 各大学の留学生獲得に向けた積極的な取組みが増加の主な要因であるが、留学生の就職説明会やワンストップ相談窓口の整備等の環境づくりが留学生を呼び込む気運づくりにもつながっていると推察される。</p>																		
	策定時	H24	H25	H26	目標値																											
iv	575 (H23)	655 <65.5%>	684 <68.4%>	735 <73.5%>	1,000人以上 [人/年(単年)]																											

No. (5)平成26年度の主な成果	(6)問題点(隘路)・課題	(7)平成27年度の推進方針等
<p>施策69</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業技術センターものづくり室に3名の研究者を採用し、製造技術開発や新規材料開発など有機薄膜関連の研究開発を加速化 「くまもと未来会議」委員に、五百旗頭薫東京大学大学院教授や堀場厚(株)堀場製作所代表取締役会長兼社長など、新たに4名の委員を招へいし、意見を交換 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的開発競争に対抗するため、国プロジェクト等の研究開発資金の確保及び研究人材の確保が課題 熊本の飛躍につながる新たなテーマやそのテーマに応じた委員の選任について検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> “ポストドク”などの優秀な若手研究員を産業技術センターに3名招へいし、県の次世代の地域産業を牽引できる革新的技術を創出 熊本の将来の飛躍に向け、知の結集のシンボルとなる委員による「くまもと未来会議」及び「リレー会議(講演)」を開催
<p>施策70</p> <ul style="list-style-type: none"> 知事トップセミナーや企業誘致可能性調査等による企業誘致活動の結果、6件の研究開発部門の誘致を達成 水俣市の環境アカデミー構想実現に向けた支援を行った結果、拠点施設として旧水俣高校商業科実習棟の活用を決定 国立水俣病総合研究センターとの連携大学院協定に基づき、研究・学習活動を促進する取組の一環として、国外の水銀専門家育成のため、県立大学が海外からの留学生を2名受入 	<ul style="list-style-type: none"> 国内市場が縮小する中、既立地企業の強みを生かした事業展開を支援する開発型・創造的な企業誘致が必要 研究者等の誘致につながるよう、拠点施設を魅力ある研究・教育環境に整備することが必要 県立大学と国水研との間で締結された連携大学院協定を通じた着実な連携が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 新規ターゲットの絞り込みと既立地企業へのフォローアップを徹底し、企業の新規投資先として「選ばれる熊本」をめざして戦略的かつ積極的な誘致活動を展開 水俣市における拠点施設づくりに向けた取組を、環境省等と連携して支援 水銀留学生を引き続き受け入れるとともに、水俣で海外の優秀な学生が学ぶ実績を積み重ね、環境アカデミー構想を後押し
<p>施策71</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学コンソーシアム熊本等との共催で留学生向け就職合同説明会を開催し、県内企業等17社と留学生82名が参加 大学コンソーシアム熊本及び熊本市と連携し、熊本市国際交流会館を拠点に、留学生コーディネーターを配置するなど、留学生の支援を展開 	<ul style="list-style-type: none"> 企業及び留学生双方のニーズの的確な把握が課題 「大学コンソーシアム熊本」を構成する教育機関のニーズに対する調整が課題 	<ul style="list-style-type: none"> 合同説明会に企業向けの海外人材活用セミナーや個別面接会等を加え、マッチングの精度を高めるための取組を推進 留学生の満足度を高め、留学生数の増加を図るため、構成機関間のニーズ調整に努め、留学生が住みやすく、学びやすい環境の実現に向けた取組を推進
<p>施策72</p> <ul style="list-style-type: none"> 官民出資による世界チャレンジ支援基金に、13,306千円(うち寄附金8,147千円(13件))を積み増すとともに、新たに大学生を対象とした事業を立ち上げ、支援の範囲を拡大 世界チャレンジ支援基金を活用した若手芸術家海外チャレンジ事業により、8名の若手芸術家が海外研修やコンクールに参加 国の研修を修了した英語教育推進リーダー(1人)や中核教員(20人：各校の英語指導の中核を担う教員)により、英語によるコミュニケーション活動に関する研修会を3回実施。また、中核教員が勤務校で近隣校(小中高)に対し研究授業を実施 世界チャレンジ支援基金を活用した州立モンタナ大学高校生派遣事業により、15名の高校生と3名の教諭を派遣。また、15人中11人の生徒が、事前・事後の英語試験で成績が向上 国のスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受けた済々黌高等学校で、グローバル人材育成に向けたカリキュラムの開発に着手 H26年度県学力調査の結果、英語が「好き」と回答した中学生が52.3%、「分かる」と回答した中学生が51.1%にそれぞれ上昇 本県独自の英語音声CD“I CAN DO IT!”を活用した試験「くまモン英語チャレンジ」を実施し、中学生31,817人(前年比1,157名増)が参加 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな分野に対する基金の活用事業の検討が必要 応募者増加や若者の海外チャレンジ意欲を喚起するためにも、事業成果や募集開始についての周知強化が必要 中核教員が十分な実践を積んだ上で研修の講師を務め、研究授業を行えるよう、年間計画を工夫する必要 モンタナ派遣研修の成果を普及促進させる取組が必要 SGH指定校の研究の成果を他校へ普及させる必要あり 小学校における英語教育の早期化・教科化及び中学校における英語教育の高度化に向けた対応が急務 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの寄附金の協力を得るため、幅広い広報活動や、ニーズに応じた基金充当事業の検討 応募者増加に向け、大学、専門学校等関係機関への効果的な周知を推進 推進リーダーによる中核教員を対象とする研修会の実施時期を早め、中核教員が授業実践を積む時間を確保 派遣生徒を昨年より倍増(30人)。事前・事後研修において、生徒の県代表としての意識の高揚、学校での成果普及計画の企画・立案 成果の普及を目指したSGH研究協議会の開催 本県独自の小学校英語音声CD“<i>I CAN DO IT! Junior</i>”を作成・配布するとともに、推進リーダーを中核とした体系化した研修を実施